

〔研究論文〕

豊かな社会力を育てる対人スキルアップ学習の効果の検証
—核のプログラムとショートプログラムを組み合わせたスキル定着のための手立てを通して—

Evaluating of Learning of Interpersonal Skills to Enhance Social Competence
— Combining Core and Short Programs toward Well-established Skills —

黒 水 温
Michiru KUROMIZU

高 松 勝 也
Katsuya TAKAMATSU

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻
生徒指導・教育相談リーダーコース/
北九州市立足原小学校

福岡教育大学教職実践講座

(2015年1月30日受理)

本研究は児童の豊かな社会力を育てるために対人スキルアップ学習を実践し、その効果の検証を目的とするものである。第1研究では対人スキルアップ学習とねらいが関連するSEL-8Sの尺度を用いて、社会力と対人スキルアップ学習との相関を検証した。検証の結果、社会力とSEL-8Sの8つの能力には相関が見られた。対人スキルアップ学習による社会的能力の向上と社会力の向上の関連が示唆された。第2研究では公立小学校第5学年を対象に核のプログラム(45分)とショートプログラム(15分×3回)を行った。実践学級と統制学級を比較した結果、有意な差は見られなかった。しかし、児童の感想からは自己理解や他者理解の深まりにつながる感想がうかがえたことから継続して実践することでさらに変容する可能性があるのではないかと考える。以上の結果をもとに効果的な対人スキルアップ学習の取組について考察を行った。

キーワード：対人スキルアップ学習 ショートプログラム スキル定着 SEL-8S

1 問題と目的

中央教育審議会答申(2007)では児童の現状と課題として、自制心や規範意識の希薄化、生活習慣の確立が不十分であることや問題行動等、子どもたちの心と体の状況にも課題は少なくないと述べている。また、自分に自信がある子どもが国際的に見て少ないことや、人間関係の形成が困難かつ不得手になっていると指摘している。

また、教育力向上県民会議(2007)は「福岡県の教育ビジョン第一次提言」で自尊感情が低下しているという課題や規範意識が低下しているという課題があることを指摘している。

また、北九州市教育委員会(2014)は「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」で学年の進捗とともに「自分にはよいところがある」といった自尊感情に関する数値が低下する傾向は、引き続き見られると述べている。また、円滑なコミュニ

ケーションや人間関係づくりに課題が見られるということも指摘している。

これらの報告等から、今日的な児童・生徒の課題として規範意識の希薄化、自尊感情の低下、人間関係づくりが不得手という課題が考えられる。

しかし、児童・生徒の問題行動が起きてから対応するのでは多大な時間や労力を要する。また、いくつもの要因が重なっているケースもあり、原因の多様化や複合化も見られる。

そこで、児童・生徒の様々な課題に対応するだけでなく、問題を未然に防ぐ開発的・予防的生徒指導の一層の充実が求められている。

心理教育的援助サービスは児童・生徒が主に学校生活で直面する様々な教育的課題や発達の課題に焦点をあて、そこに生じる様々な問題を援助する。心理教育的援助サービスのうち、すべての児童・生徒を対象とした一次的援助サービスの中に自他の長所の発見や人間関係を円滑にするための

方法として社会的スキルの学習である心理教育プログラムは位置付けられている。心理教育プログラムとは「心理学の考え方や研究成果などを基盤とした学習プログラム」(小泉, 2011)であるとしている。

戸田(2006)は取り上げたその時間だけ学ぶのではあまり効果がなく、ある程度の時間をかけて何度か行うことの重要性を指摘している。堤・小泉ら(2011)は心理教育プログラムの教育的意義は明らかになったが、教育課程のどこにどの程度位置付ければよいかという課題を指摘している。つまり、学校現場では心理教育プログラムの教育課程への位置づけが難しいという現状がある。導入している学校での実施時間も総合的な学習の時間や学級活動など様々な時間を活用して実施されているが、明確な位置づけがされていない。心理教育プログラムの効果を期待することのできる長期的、継続的な時間の確保が課題である。

また、心理教育プログラムには般化の課題が指摘されている。般化の課題について田中・小泉(2007)では他教科や教科以外の学習時間(朝の会や帰りの会など)の指導内容及び時間と関連付けることができれば児童・生徒の意識が連続され、活動内容の強化・般化につながることを実証している。

門脇(1999)は「社会力」とは「好ましい社会を構想し、作り、運営し、改革していく意図と能力と、そのための日常的な活動」「社会を作る人間の側に力点を置いた概念」としている。

この「社会力」の基盤となる事柄ないし能力とは大きく分けて2つあり「1つは他者を認識する能力であり、あと1つは他者への共感能力ないし感情移入能力」と定義している。「他者を認識する能力」とは「相手の立場に立って、あるいは相手の身になって、物事を見たり考えたりすることができるということ」と定義している。これは他者理解、自他尊重につながると考える。また、「他者への共感能力ないし感情移入能力」とは「相手に対して同情的かつ好意的な感情を寄せることができること」である。言い換えるなら「思いやり」と述べている。これは対人関係形成・維持につながると考える。

荒木・窪田ら(2010)は「対人スキルアップ学習」とは不登校、いじめ、非行などの学校不適応を対人スキルの未学習・未習得と捉え、行動面だけでなく広い意味で対人関係を円滑にしていくための様々なスキルを身に付けることを目的とした心理

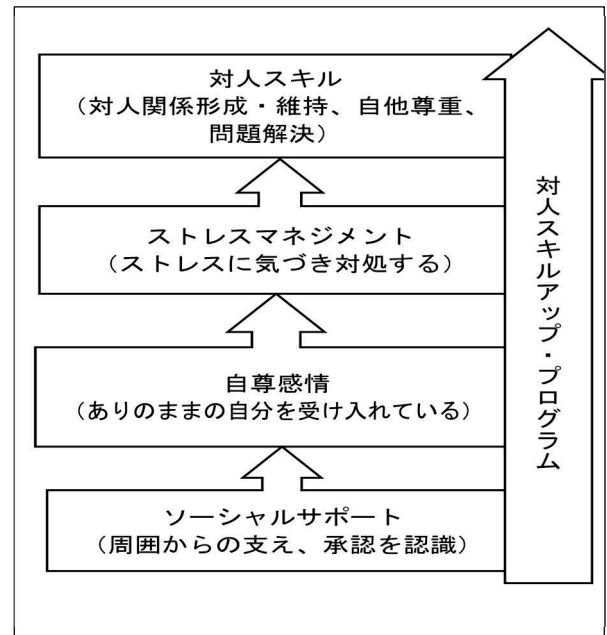


図1 対人スキルアップの構造(窪田, 2013)

教育プログラムとしている。特に感情や認知の役割を重視しており、具体的には「①自尊心を高めること、②児童の対人関係のスキルを高めること」を目的としている。

対人スキルアップ・プログラムは、第一段階では周囲からの支えや承認といったソーシャルサポートを得て、第二段階においてありのままの自分を受け入れる自尊感情が高まり、第三段階では自身のストレスに気づき対処するストレスマネジメントのスキルを身に付けるとことで第四段階の対人関係の形成・維持、自他尊重、問題解決などの対人スキルが身に付けられるという構造(図1)になっている。

このように「対人スキルアップ学習」を行うことで児童の自尊感情や対人関係のスキルを高めることが期待できる。それらは「社会力」の基盤となる「他者を認識する能力」や「他者への共感能力ないし感情移入能力」のもととなり、「豊かな社会力」を育てることにつながると考えた。

以上のことから本研究の目的を以下の2つとする。第1の目的は対人スキルアップ学習を実施することで児童の社会力が向上するかどうかを確認すること、第2の目的はスキル定着のショートプログラムの関係とその効果を確認することである。

2 第1研究

(1) 研究の目的

表 1 社会力アンケートの項目

《社会力アンケート》	
1	クラスに新しく入ってきた子がいると、すぐになかよくなりたくなる。
2	知らない人に会ったと、いろいろ質問したくなる。
3	どんな子ども、なかよくなりたくなる。
4	近所のおとなの人とも、よく話をする。
5	知らないことがあると、知っている人におしえてもらいたくなる。
6	一人でいるよりも、おおぜいの人といっしょに遊ぶのが好き。
7	ほかの人から話を聞くのが好き。
8	友だちがなんでもよく話をする。
9	自分で正しいとおもったことは、だれにもきちんと言えを言う。
10	友だちがいたら、その人のきもちがよくわかる。
11	こまわしい人を見ると、たすけてあげたくなる。
12	友だちがかなしそうしていると、自分もかなしくなる。
13	テレビのニュースを見たり、新聞を読んだりするのが好き。
14	だれかにご注意されたりすると、ありがとうといいたくなる。
15	友だちの顔を見ると、どんな気持ちかよくわかる。
16	友だちとけんかしたあとは、自分からあやまってなかなおりする。
17	友だちから、いろいろそだんされたり、困ったことをはなされたりする。
18	知っている人がうれしそうしていると、自分もうれしくなる。
19	いろいろなことにきょうみがあって、いろいろなことをやってみたくなる。
20	おとなの人におしえてもらいながら、いっしょに何かをするのが好き。

豊かな社会力と対人スキルアップ学習で目指す力の関係を検討するため、社会力と SEL-8S の 8 つの能力の相関を検証することを目的とする。

(2) 研究の方法と結果

①調査時期

2014 年 10 月, 2014 年 12 月

②研究対象

第 5 学年実践学級 30 名(男子 16 名, 女子 14 名)

③手続き

社会力を測定する尺度として「子どもの社会力を測る 20 の質問項目」(門脇, 2005)をもとに社会力アンケートを作り, 実施する。表 1 に社会力アンケートの項目を示す。アンケートは 20 項目, 5 件法(まったくそうではない, あまりそうではない, どちらでもない, そのとおり, まったくそのとおり)で行った。

窪田(2013)は対人スキルアップ・プログラムの目指すものと SEL-8S のねらいが関連しているとしている。対人スキルアップ学習で育成を図る社会的能力と SEL-8S で育成を図る社会的能力も関連すると考える。そこで, 対人スキルアップ学習の効果測定のために SEL-8S の小学生用自己評定尺度(小泉, 2011)を使用する。

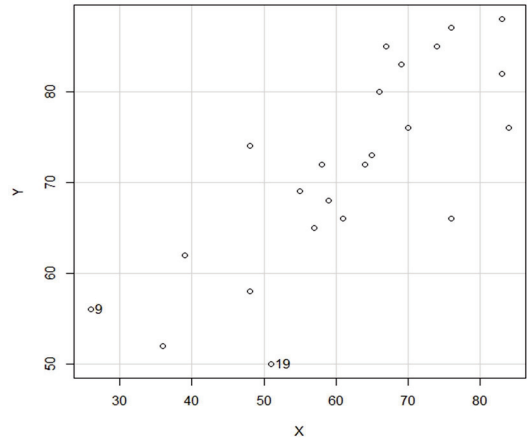


図 2 社会力と SEL-8S の 8 つの能力の相関図(実践前)

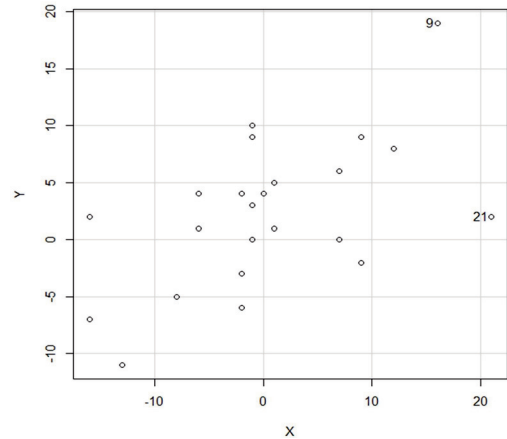


図 3 社会力と SEL-8S の 8 つの能力の実践前と実践後の差の相関図

④内容

社会力アンケートの合計得点と SEL-8S 小学生用自己評定尺度の各項目の素点の合計の相関係数を求めた。

また, 実践後に社会力アンケートの合計得点と SEL-8S 小学生用自己評定尺度の各項目の素点の合計の差を求め, 相関係数を求めた。

⑤結果

X軸を「社会力アンケート」の合計得点, Y軸を SEL-8S 小学生用自己評定尺度の各項目の素点の合計として相関を求めたところ相関係数は+0.78となった。図 2 に社会力と SEL-8S 小学生用自己評定尺度の各項目の素点の合計との相関図を示す。社会力アンケートの合計得点と SEL-8S 小学生用自己評定尺度各項目の素点の合計には強い相関が見られた。

実践後, 社会力アンケートの合計得点と SEL-8S 小学生用自己評定尺度の各項目の素点の差の相関

係数を求めた結果、相関係数は+0.56となった。図3に社会力とSEL-8S小学生用自己評定尺の実践前実践後の差の相関図を示す。社会力アンケートとSEL-8S小学生用自己評定尺の各項目の合計の実践前後の差に相関が見られた。

⑥考察

実践前の相関係数は+0.78となり強い相関が見られたことから、社会力とSEL-8Sで育成を図る社会的能力には相関があると言える。

また、社会力とSEL-8S小学生用自己評定尺の実践前後の差にも相関が見られた。これは社会力の向上とSEL-8Sで育成を図る社会的能力の向上に相関があると言える。

このことから対人スキルアップ学習で育てる力と社会力は関連があると思われる。

3 第2研究

(1) 研究の目的

対人スキルアップ学習で核となるプログラムとスキル定着のためのショートプログラムの実施における効果を検証することを目的とする。

(2) 研究の方法と結果

①調査期間

2014年10月～2014年12月

②研究対象

福岡県内の公立小学校第5学年2学級61名(男子32名, 女子29名)の児童を対象とした。うち1学級を実践学級, もう1学級を統制学級とした。

③手続き

効果測定はSEL-8Sの小学生用自己評定尺度を使用する。取組の内容は④に示す。

効果測定の実施時期は2014年10月, 2014年12月とする。

④実践の内容

対人スキルアップ学習「皿倉プログラム」をもとに, 1学期は「安心できるクラスづくり, 自己コントロール」, 2学期は「自己理解・他者理解」, 3学期は「協力」というねらいを意識して「足原プログラム」の年間計画を立てた。年間4回の核となるプログラムと, スキル定着のためにショートプログラムを導入する。年間4回の核となるプログラムとショートプログラムを組み合わせた「足原プログラム」の5年生の年間計画を表2に示す。核となるプログラムは45分を1回とする。ショートプログラムは1回15分で核のプログラムと関連

表2 「足原プログラム」5年生年間計画

	5年生		
	ねらい	対人スキルアップ学習	ショートプログラム
4月	自己コントロールづくり		自己紹介
5月		4つの中から	しつもんじゃんけん
6月			いとこさがし
7月			ともだち見つけた
9月	自己理解		みんなで輪くぐり
10月		めざせなかよし名人	じょうずなたのみ方
11月		ちょっと考えてみよう	ごちゃまぜビンゴ3×3
12月			言葉のプレゼント
1月	協力のまとめ		クラスの中の自分
2月		仲間と協力して問題を解決しよう	もしもゆめがかたなら
3月			ありがとう5年生

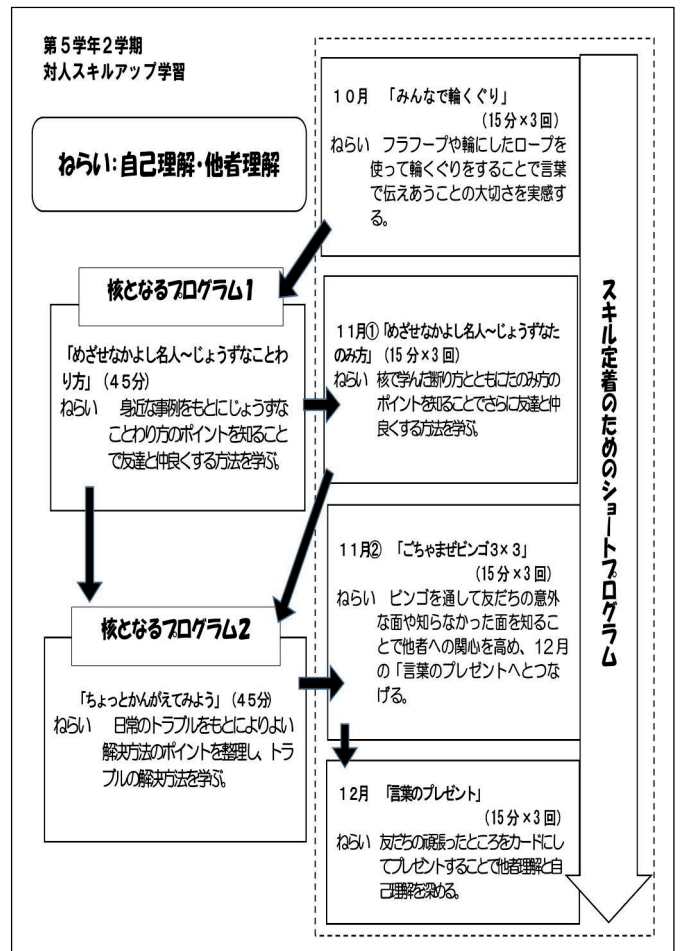


図4 5年生2学期対人スキルアップ学習計画

した内容を行う。15分×3回を1ユニットとする。図4は5年生の2学期の実践を図式化したものである。核のプログラムは特別活動の時間に、ショートプログラムは朝の活動時間に行った。本研究では年間計画のうち9月から12月のものを11月12月に集中して行った。

5年生では核となるプログラムとして11月に「めざせなかよし名人～上手なことわり方」12月に「ちょっと考えてみよう」を実施した。「めざせなかよし名人～じょうずなことわり方」の前にショートプログラム「みんなで輪くぐり」を行い、言葉によって伝えることの大切さについて考えた。その後、「めざせなかよし名人～じょうずなことわり方」ではものの貸し借りの場面を取り上げ、SEL-8Sの資料「ことわるのはこわか(ことわる方法いろいろ)」を提示して断り方のポイントを学び、相手にうまく気持ちを伝える方法について学んだ。その後、ショートプログラム「めざせなかよし名人～じょうずなたのみ方」ではSEL-8Sの資料「はりお(を)たのむ」のたのみ方のポイントをもとにじょうずなたのみ方について学んだ。その後の「ちょっと考えてみよう」では、日常生活の中で起きてしまうトラブルをどのように解決していくかを考えた。SEL-8S「人間関係づくりトラブルの解決」を実施した。その後ショートプログラム「ごちゃまぜビンゴ」「言葉のプレゼント」を実施して自己理解他者理解を深めた。

図4の12月「言葉のプレゼント」の3回の計画を図5に示す。1ユニットは1回15分×3回で計画した。第1時では「言葉のプレゼント」の活動について説明し、友だちにプレゼントするカードの準備を行った。第2時ではカードを完成させる。第3時では互いにカードをプレゼントした。振り返りは毎時行い、活動のめあてを意識させた。

⑤結果

SEL-8Sの8つの能力は「自己への気づき」「他

5年ショートプログラム12月		5年12月
「言葉のプレゼント」(各15分)		
めあて 友達のよさを見つけ、言葉のプレゼントとして伝えることで仲間のよさに気づき、自己理解を促進する。		
ショート①「言葉のプレゼント」～カードの準備		
活動	指導上の留意点	
導入	1. 「言葉のプレゼント」のやり方を説明する。	「言葉のプレゼントのやり方」を提示し、今日の学習内容について確認する。
展開	2. カードに相手の名前を書いてカードの準備をする。	運動会、バスケットボール大会、学習中、休み時間、委員会、クラブ活動、掃除、放課後の遊び、習い事などの場面を提示する。
まとめ	3. ふりかえりをする。	次回までに友達の良いところや頑張っているところなどを見つけて響けるように声をかける。
ショート②「言葉のプレゼント」～カードの完成		
活動	指導上の留意点	
導入	1. 「言葉のプレゼント」のやり方を確認する。	「言葉のプレゼントのやり方」を提示し、今日の学習内容について確認する。
展開	2. 友達のいいところをカードに書いて完成させる。	書けない児童が予想されるので、担任がアドバイスできるように事例を準備しておく。
まとめ	3. ふりかえりをする。	次回は書いたカードを相手にプレゼントすることを伝える。
ショート③「言葉のプレゼント」～カードをプレゼントする		
活動	指導上の留意点	
導入	1. 「言葉のプレゼント」のやり方を確認する。	「言葉のプレゼントのやり方」を提示し、今日の学習内容について確認する。
展開	2. カードをプレゼントする。	「がんばったね」「すごいね」と声をかけてカードを渡す。もらった人は「ありがとう」といって握手をする。
まとめ	3. ふりかえりをする。	もらったカードを見直して振り返りを行う。

図5 5年生ショートプログラム12月「言葉のプレゼント」

者への気づき」「自己のコントロール」「対人関係」「責任ある意思決定」の5つの因子を「基礎的社会的能力」とし、「生活上の問題防止スキル」「人生の重要事態に対処する能力」「積極的・献身的な奉仕活動」の3つの因子を「応用的社会的能力」としている。

ここでは「基礎的社会的能力」は児童自己評定尺度の項目1から16のうち虚偽尺度6を除外した15項目(60点満点)とし、「応用的社会的能力」の得点は項目17から26のうち虚偽尺度20を除外した9項目(36点満点)とした。また、上位群は10月のSEL-8S小学生用自己評定尺度の「基礎的社会的能

表3 第5学年SEL-8S小学生用自己評定尺度上位群の平均値とSD及び分散分析結果

	実践学級		統制学級		分散分析結果			
	10月	12月	10月	12月	主効果(実施)	主効果(時期)	交互作用	(df1, df2)
基礎的社会的能力 (n=14,17)	50.79(3.17)	49.79(6.21)	49.41(3.24)	48.82(4.90)	0.64	1.20	0.08	(1,29)
応用的社会的能力 (n=13,16)	32.31(1.97)	31.69(2.36)	31.63(2.03)	31.19(2.81)	0.55	2.36	0.07	(1,27)

+p < .10, *p < .05, **p < .01, ***p < .001

表4 第5学年SEL-8S小学生用自己評定尺度下位群の平均値とSD及び分散分析結果

	実践学級		統制学級		分散分析結果			
	10月	12月	10月	12月	主効果(実施)	主効果(時期)	交互作用	(df1, df2)
基礎的社会的能力 (n=15,9)	39.07(4.21)	40.93(5.36)	38.33(7.89)	40.33(8.96)	0.06	2.80	0.003	(1,22)
応用的社会的能力 (n=16,10)	24.81(3.15)	25.88(3.46)	24.50(3.92)	24.70(5.56)	0.29	0.63	0.29	(1,24)

+p < .10, *p < .05, **p < .01, ***p < .001

力」の素点の合計が平均値 45 以上のもの、「応用的社会的能力」の得点が平均値 29 以上のものとした。下位群は 10 月の SEL-8S 小学生用自己評定尺度の「基礎的社会的能力」の得点が平均値 45 未満、「応用的社会的能力」の得点が平均値 29 未満のものとした。なお、欠損値のあるものは除外した。

表 3 では SEL-8S 小学生用自己評定尺度の上位群の変容を、表 4 では SEL-8S 小学生用自己評定尺度の下位群の変容を示している。

その結果、上位群、下位群ともに基礎的社会的能力、応用的社会的能力において有意差は認められなかった。

プログラム実施後の児童の感想の一部を表 5 に示す。核となるプログラム「めざせなかよし名人～上手なことわり方」とショートプログラム「めざせなかよし名人～じょうずなあなたのみ方」の授業後の児童のアンケートでは「今まで私は断るのが苦手だったけど、『ことわるのは“こわか”』を使って断りたい」「前に断り方をやっているの、たのみ方の違いがわかった。(中略)何かたのむ時があったら(『はりをたのむ』)を使ってみたい。」と感想を述べていた。

また、ショートプログラム「ごちゃまぜビンゴ 3×3」では「友達の意外な一面を知ることができた」「普段話さない友達と話をすることができた」という感想が見られた。その後の「言葉のプレゼント」では「友達のいいところを見つけるのが難しかった。」「自分のがんばりを見つけてもらえてうれしかった。」という感想が見られた。

2 学期のすべてのプログラム終了後、第 5 学年実践学級担任に半構造化面接を行った。その結果を表 6 に示す。対人スキルアップ学習について、実践前の印象について「よくわからない。」「道徳のロールプレイングと似ていると思った。」と述べていた。実施中は「楽しんで前向きに活動していると思った。」「本当は関わりあいたいのだということがわかった。」「予想していなかった児童の姿が見られたりした。」という感想を持っていた。対人スキルアップ学習について「面白いと思った。」「『皿倉プログラム』にのっている活動以外にもいろいろ活動があることが分かった。」「ショートプログラムは(中略)シンプルな展開なのでわかりやすかった。」「難しいと感じたことはなかった。」「シンプルで簡単で楽しい授業だと思った。」と述べていた。また課題として「カリキュラムがあればみんなが実施しやすい。」「学校の体制として対人スキルを行う体制作りが必要。」ということも挙げて

表 5 授業後の児童の感想の一部

児童の感想	
今まで私は断るのが苦手だったけど、これからは「ことわるのは“こわか”」を使って断りたいです。	
前にことわり方をやっているの、たのみ方もよくわかった。「ありがとう」と言わるとうれしかった。何かたのむ時があったら使ってみたいです。	
友だちの意外な一面を知ることができたのでよかったです。	
ふだん話さない人とも話せたのでよかったです。	
ともだちのいいところを見つけるのが難しかったです。	
友だちからがんばりを見つけてもらえてうれしかったです。	

表 6 実践学級担任への半構造化面接の結果

質問	回答
①実践前の印象	やったことがなかったのでよくわからない。皿倉プログラムを見て道徳のロールプレイングと似ていると思った。
②子どもの反応	とても楽しんでいて前向きに活動していると思った。男女を意識してしまう年頃だがなんだかんだ言って最終的には関わっていた。本当は関わりあいたいのだということがわかった。関わりあう場面では意外な子がとてもいいことを言っていたり、予想していなかった児童の姿が見られたりした。まだじょうずに関われない子どももいるのでそこが課題だと思った。
③実践後の印象	対人スキルアップ学習は面白いと思った。皿倉プログラムにのっている活動以外にもいろいろ活動があることが分かった。子どもが楽しそうに取り組んでいることがとてもよかったです。
④ショートプログラムの印象	ショートプログラムはとても良いと思った。シンプルな展開なのでわかりやすかった。子どもの意識の連続性が心配だったが日にちがあいても子どもたちは活動内容をよく覚えていた。難しいと感じたことはなかった。シンプルで簡単で楽しい授業だと思った。
⑤実践の自信	5は言いにくいけど、3か4くらいはある。
⑥今後の課題	学校のパソコンに共有データとして指導案やワークシートなど活用できるようにしていると思う。カリキュラムがあればみんなが実施しやすい。先生たちがするんだという体制があるといい。この日にする、とか。
⑦その他	教師の解釈。どう生活に結び付けていくかという部分を先生たちにどう意識させるか。プログラムが決まっているからやりやすかった。そういうものが必要。最終的にどうなっていくのか、子どもたちにどんな力をつけるのか見通せるものが必要。教師が意識できるように。印刷など手間がかかるので、担任をサポートする人がいるといい。学校の体制として、対人スキルを行う体制作りが必要。

いた。自分で授業を行う自信については 5 段階評価で「3か4くらい。」であると答えていた。

⑥考察

実践の結果、実践学級と統制学級では児童自己評定尺度の変容は見られなかった。その原因として、本来 4 か月で実践する計画のプログラムを 2 か月間という短い期間で実施したことや核のプログラムが 2 回、ショートプログラムが 4 ユニットと回数が少なかったことが原因として考えられる。

また、今回の実践ではショートプログラムの効果も見られなかった。

短い期間で集中して実践を行っても児童には社会的能力は身につかないのではないかと考える。

児童の感想では「使ってみたい」という感想が多く見られ、学んだスキルを日常でも使おうとする意欲が見られた。また、「自分は今まで断るのが苦手だった」や「友達の意外な一面を知ることができた」という感想からは自己理解や他者理解が進んだことがうかがえた。SEL-8S の小学生用自己評価尺度の結果では有意差が見られなかったが、児童の感想からは実践を行ったことで自己理解や他者理解の深まりにつながるような感想が認められる。児童の感想から、今後継続して実践することでさらに変容する可能性があるのではないかと考える。

プログラム実施後の実践学級担任への半構造化面接ではショートプログラムについて「シンプルで簡単で楽しい授業だと思った。」と実践の取り組みやすさを感じていた。一方で、「子どもたちにどんな力をつけるのか見通せるものが必要。」「対人スキルアップ学習を行う体制が必要」と活動の目的を教師が意識して授業することや計画的に取り組むための体制づくりの重要性を述べていた。面接の結果、実践を通して児童の新たな一面や課題に担任が気づいていることがうかがえた。また、よりよい実践を行うために対人スキルアップ学習の理論や構造と実践方法について教師が学ぶ場の設定が必要であるとともに、年間カリキュラムや実施のマニュアルなどが必要であると感じることがわかった。

今後は継続的・計画的な実践を行うために年間カリキュラムの作成、対人スキル学習実施のためのマニュアルの整備などを行うとともに、児童にとって効果的な実践を行うために対人スキルアップ学習についての校内研修会を実施する必要がある。

4 総合考察

本研究は児童の豊かな社会力を育てるために対人スキルアップ学習を実践し、その効果の検証をするために第1研究、第2研究を行った。

第1研究では社会力と対人スキルアップ学習の相関を検証した。対人スキルアップ学習のねらいとSEL-8Sのねらいが関連していることからSEL-8Sの尺度を使用した。社会力とSEL-8Sの相関係数は+0.78で相関が見られた。このことより社会力とSEL-8Sで育成を図る社会的能力には相関があ

ると言える。

また、社会力アンケートの得点の差とSEL-8S小学生用自己評価尺度の各項目の素点の合計の事前事後の差にも相関が見られたことから、社会力の向上とSEL-8Sの8つの能力の向上に相関があると言える。

対人スキルアップ学習とSEL-8Sのねらいが関連していることから、対人スキルアップ学習で育成を図る社会的能力と社会力にも相関があると言える。

対人スキルアップ学習を実施して社会的能力を向上させることは社会力の向上に有効であることが示唆された。

今後は対人スキルアップ学習を充実させ、社会力の向上に努めたい。

第2研究では第5学年における対人スキルアップ学習の核のプログラムとショートのプログラムの効果の検証を行った。

検証の結果、実践学級と統制学級に変容が見られなかった。原因として実施期間が短いことと回数の少なさがあると考えられる。核のプログラムは1回45分で実施したが、ショートプログラムは1回15分のうち、導入と振り返りを除くと活動時間は5分程度だったため、1ユニットの活動時間は5分×3回=15分となってしまった。

相川(2008)はプログラムの実施回数ができるだけ多いほうが良いことを指摘している。また、小泉・山田ら(2013)は7回以上の心理教育プログラムの実施により学習効果が高くなることを指摘している。したがって、本研究の結果は実施回数が多いほど学習効果が高いという先行研究の結果と一致するものである。

SEL-8S小学生用自己評価尺度の結果では有意差は見られなかったものの児童の自己理解や他者理解の深まりにつながるような感想が見られたことから、短期間で集中して実践を行うよりも、計画的・継続的に実施していく必要があることも示唆された。

ショートプログラムの構成を検討し、導入や振り返りの時間を短くして活動時間を確保するよう再構成するとともに、プログラムの内容を検討して核のプログラムとの関連を強化しショートプログラムを効果的に実施する必要がある。

一方でショートプログラムは実施時間が短いので導入しやすいこと、シンプルな展開で担任にとって実施しやすいという利点がわかった。担任にとってショートプログラムは対人スキルアップ学

習実施への負担感や抵抗感を軽減すると考える。

今後は担任にとって負担感抵抗感の少ないショートプログラムを引き続き実施していくが、活動時間が十分に確保されるよう計画を練り直したい。

また、対人スキルアップ学習を計画的に進めるための年間カリキュラムの作成や授業実施のマニュアルなどの整備を行って、全校で取り組む体制を作ることが必要である。

今後は全校で対人スキルアップ学習を実施するために、まずは年間カリキュラムを作成し、授業の指導案やワークシート、掲示物などを整備したい。また、対人スキルアップ学習のねらいや構造などの理論について学ぶ校内研修を実施して計画的継続的な取り組みが行われるようにしたい。

今後、児童の社会的能力を高める対人スキルアップ学習を実施していくために以下の2点の課題が考えられる。

1点目はショートプログラムの充実である。本研究では回数や時間が十分確保できなかったためショートプログラムの効果が確認できなかったという課題が残された。今後はショートプログラムの回数を確保し、内容を充実させる必要がある。毎回の導入や振り返りの時間を短くし、活動時間を多く確保できるような手立てを考えてプログラムを再構成する。また、児童の能力を高めるためには年間計画をもとに計画的・継続的なプログラムの実施が必要である。核のプログラムとの関連を考慮して、年間計画を修正し計画的に実施する。

2点目は対人スキルアップ学習の効果的な実施のために、全職員を対象に対人スキルアップ学習のねらいや構造などの理論と実践方法について学ぶ校内研修の計画実施が必要であると考えられた。その際に取組へのアイデアが出せるようにワークショップ型の研修にするなどの工夫を行う。共通理解から共通実践につなげ、継続的に取り組むことができれば対人スキルアップ学習によって育成を図る社会的能力が高まると考える。共通理解共通実践のための職員研修の充実や授業実施マニュアル、指導案、ワークシート等の作成を行いたい。

本研究での課題が解決するように、内容を再構成し、継続して研究を進める。

主な引用・参考文献

- 相川充 2008 小学生に対するソーシャルスキル教育の効果に関する基礎研究：攻撃性の分析を通して 東京学芸大学紀要・総合教育科学系 59,107-115
荒木史代・窪田由紀・小田真二・阿部悦子・白井祐

- 浩・安達都耶子 2010 学校全体を対象とした心理教育の導入・実践過程ある学校での「対人スキルアップ・プログラム」の実践の検討から 心理臨床学研究 28-2
中央教育審議会答申 2008 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について
江村里奈・岡安孝弘 2003 中学校における集団社会的スキル 教育の実践的研究教育心理学研究 51,339-350
藤枝静暁・相川充 2001 小学校における学級単位の社会的スキル訓練の効果に関する検討 教育心理学研究 49,371-381
門脇厚司 1999 子どもの社会力 岩波新書
門脇厚司 2001 社会力が危ない！ 学習研究 社
香川尚代・小泉令三 2013 児童の社会的能力を向上させることによる学習への取組促進の効果～小学校低学年での SEL-8S 学習プログラム実践による試行～ 福岡教育大学教育総合研究所教育実践研究 21,259-266
北九州市教育委員会 2014 北九州市子どもの未来をひらく教育プラン
北九州市立皿倉小学校 2010 対人スキルアップ学習「皿倉プログラム」
小泉令三・山田洋平・箱田裕司・小松佐穂子 2013 心理教育プログラムの実施回数による学習効果差の検討—小中学校における SEL-8S 学習プログラムの実践を通して— 教育心理学会第 55 回総会 学校心理学 PD-079
小泉令三 2011 社会性と情動の学習(SEL-8S)の導入と実践 ミネルヴァ書房
小泉令三 2011 社会性と情動の学習(SEL-8S)の進め方【小学校編】 ミネルヴァ書房
窪田由紀 2013 小・中学校の9年間を見通した『対人スキルアッププログラム』の展開 北九州市対人スキルアップ研究指定校(高須中校区)発表会資料 教育力向上県民会議 2007 福岡県の教育ビジョン第一次提言
田中展史・小泉令三 社会性と情動の学習(SEL)プログラムの効果・一般化に関する試行的実践—教科等との関連付け、目標の個別化、保護者との連携を通して— 福岡教育大学心理教育相談研究 11,73-81
戸田まり 2006 学校で実施する社会性および人間関係の学習プログラム 北海道大学紀要 57-1
堤さゆり・小泉令三 2011 ボランティア学習と心理教育プログラム(SEL-8S)の組合せによる児童の自己有用感と社会性の向上 日本学校心理士会年報 4,63-72